【加藤さん】秋に行った部分実習では、芋掘りに関する絵本の読み聞かせ、夏に行った責任実習では、カタツムリのはじき絵の製作をしました。子どもたちが私との時間を楽しんでくれたので、実習前に感じていた不安や緊張を忘れ、とても充実した日々を過ごせました。

【白川先生】そうでしたね。加藤さんが実習を楽しめたのは、短期間でも、たくさんのことを吸収しようという姿勢で積極的に現場の先生方とコミュニケーションを取っていたからだと思います。加藤さんが現在も、保育士として活躍されていると伺った時は嬉しかったですよ。

――加藤さんはどのように就活を進めていったのですか？

【加藤さん】実習を通して、子どもの主体性を大切にしている園をもっと見てみたいと思うようになりました。そこで、たくさんの園を比較することができる就活イベントに参加して、現在働いている、WITH GROUPに出会いました。イベントの後日に、実際に園でインターンシップを行ったのですが、子どもたちにとってお家と変わらない、ゆったりとした時間を大切にしていることに魅力を感じました。また、子どもたちの主体性を育むために、風船を使って遊ぶコーナー、絵を描くコーナーなどに分け、子どもたちが好きな遊びを選択しやすい環境を保育者が整えていることに気づきました。なにもない部屋で「好きな遊びをしてね」というわけではなく、子どもが「やってみたい」と思えるような工夫を保育者が考えることができるので、今まで大学や実習で学んできたことを活かすことができると思いました。

【白川先生】加藤さんの園では、子どもの主体性を大切にしているんですね。

【加藤さん】そうなんです。また、選択できる環境は子どもたちだけではなく、働く保育士にもあります。自分の得意なことや好きなことを活かして保育ができるので、ピアノを上手に弾けないといけないなどの強制されたルールはありません。職員間でコミュニケーションを取って、苦手なことをカバーし合っています。ちなみに、私は大学時代に造形ゼミに入っていたので、子どもたちと製作遊びを楽しむ時間が好きです！

【白川先生】自分の得意なことを活かせるのは良いですね。今の学生たちも、それぞれが加藤さんのように自分に合った園に出会えると嬉しいです。

――白川先生は学生指導をする際に、大切にしていることはありますか？

【白川先生】児童学科には将来、保育士や幼稚園教諭、小学校の教員を目指している学生が多いのですが、学んでいるうちに、ほかの道を考える学生もいます。そのような多様な学生たちのことも考えながら、学生たちの主体性も尊重して指導を行っています。

【加藤さん】白川先生の〝教育心理学〟と〝教育相談の理論と方法〟を受けたことがあるのですが、講義の中で白川先生が話していたことを今でも思い出すことがあります。例えば、幼児クラスを担当していた時に「机の上に足を乗せて座るのはやめなよ。女の子なんだから！」とお友達に言った子がいたんです。机の上に足を乗せることはいけないことなんですけど、女の子だからいけないというわけではないと思ったんです。その時に、白川先生の話を思い出しました。

【白川先生】そうですね。5歳くらいになると、自分の性別を意識し始める子どもが増えてきます。差別とかではなく、「自分は男の子だから男の子の遊びをしなきゃ！男の子と一緒にいなきゃ！」と自然に男の子と女の子が分かれて集団を作るようになります。しかし、そうしてしまうと、子どもたちの経験が狭まってしまうので、みんなが一緒にできる遊びを考えることも大切だという話を講義でしています。また、保育士が気をつけなくてはいけないことは、「男の子なんだから泣いちゃだめだよ」「女の子なんだからおしとやかにしようね」という性別に偏った声掛けです。「明日は遠足だからお母さんにお弁当作ってもらおうね」「服が汚れちゃったからお母さんに洗ってもらおうね」という声掛けも、女性が料理や洗濯をするものと子どもたちに認識されてしまいますよね。

【加藤さん】そうですね。白川先生の話を思い出してからは、クラスのみんなで楽しめる遊びを考えるようになりました。例えば、おままごとは女の子の遊びだと思っていた子どもたちが、クラスみんなでおままごとを楽しむようになったんです。そのきっかけは、ある子が「男の子、女の子関係なく、みんなが楽しめるおままごとがあったらいいね」と発言したことでした。その件をこども会議（※）の議題にしてみると、子どもたちは様々なアイデアを出してくれました。話し合いの結果、ご飯を作る場所・食べる場所・洗濯をする場所などを保育室内に作り、家に見立てた環境を整えることになりました。すると、おままごとの中でも、一人ひとりが好きな遊びを選択できるようになり、クラスみんなが楽しめるようになったんです。お友達の意見を尊重しながら話し合いをする子どもたちの姿に感心しました。

【白川先生】そうだったんですね。今の話を聞いて、加藤さんはしっかり子どもの声を聞いているんだなと思いました。保育者の意見をただ押し付けると、子どもたちからの意見って出てこなくなるんですよ。「やりたい！」と子どもたちから自然に声があがるのは、「加藤先生なら受け入れてくれる」と子どもたちが認識している証拠だと思います。そんな素晴らしい先生になってくれて、すごく嬉しいです。

【加藤さん】白川先生にそう言ってもらえると嬉しいです。

――ありがとうございます。最後に加藤さん、保育士としてのこれからの目標を教えてください。

【加藤さん】私が今日、大学に帰ってきたように、子どもたちにとっても帰りたいと思えるような保育園でありたいと思っています。そのために、大学で学んだことを思い出して、一人ひとりの発達に寄り添いながら、子どもの感性を尊重する保育を続けていきたいと思っています。

【白川先生】大学で学んだことが現在、加藤さんが行っている保育に結び付いていることが本当に嬉しいです。私もこれから、後輩たちが加藤さんのような先生になってくれるようにしっかり指導していきたいと思っています。いつでも、また帰ってきてくださいね。今日は本当にありがとうございました。

【加藤さん】後輩たちの手本になれるようにこれからも頑張ります！ありがとうございました。

――本日はありがとうございました。

（※）こども会議　4.5歳児を対象にマナー・約束事・人間関係など、様々なテーマに沿って話し合って解決できるようにすることを目標とする取り組み。

実際に加藤さんのクラスで行った、こども会議の様子。子どもたちは友達の意見を聞くことで、「こんな考えもあるんだ！」という気づきにもなり、みんなの意見を踏まえて、折り合いをつけることができるようになる。

WITH GROUP
（社会福祉法人 彩保育会／株式会社WITH）
（取材園:ういず東駒形保育園）

<お問合せ>
埼玉県川口市飯塚1-2-16-3F
☎048-240-0522
設立:2002年2月

WITH GROUP

東京・埼玉・神奈川・千葉で19名定員の小規模から120名定員の認可保育所を運営している。“仲良く・楽しく・元気よく”をモットーに「日本で1番長く働きやすい職場」を目指す。一人暮らし支援や無料託児所制度など職員を支える制度で、保育者のための環境づくりを促進。

求人情報はこちら

オンライン 園見学　オンライン 説明会　オンライン 相談会

共立女子大学

共立女子大学
共立女子短期大学

<お問合せ>
東京都千代田区一ツ橋2-2-1
☎03-3237-5927
設立:1886年3月

幼稚園教諭免許+保育士資格、もしくは 幼稚園教諭免許+小学校教諭免許の取得が可能。併設である共立大日坂幼稚園、発達相談・支援センター、子育て広場「はるにれ」、親子支援の授業「さくらんぼ」などの多彩な現場を有し、知識と実践力を併せ持つ人材育成に取り組む。

HPはこちら

ピアノ室　「現在、園で子どもたちと音楽を楽しめるのは、学生時代に苦手だったピアノを克服できたおかげです！」

造形室　加藤さんが所属していた造形ゼミでよく使用していたという。「卒業製作に励んだことを思い出します」

プレイルーム　絵本や楽器、玩具などが揃っているプレイルームは子育てひろば「はるにれ」内にある。

ラウンジ　「友人と話したり、課題をしたりしていました。みんなで支え合いながら実習などを乗り越えました！」

講義室　2人の思い出の場所。「白川先生が講義で話していたことを、保育士になってからも思い出すことがあります」